

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成28年12月15日)

[件名]

- 1 平成28年鳥取県中部地震について (危機管理政策課) … 1
- 2 島根原子力発電所2号機 中央制御室空調換気系ダクトの腐食について (原子力安全対策課) … 9
- 3 平成28年度防災士養成研修の開催について (消防防災課) … 12
- 4 平成28年度「防災とボランティアの日」及び「防災とボランティア週間」における防災関連行事について (消防防災課) … 13

平成28年鳥取県中部地震について

平成28年12月15日
危機管理政策課

平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震（地震調査研究推進本部は「鳥取県中部の地震」と表記）の概要等は次のとおりです。

（注）以下、出典は、特に明記しない場合は地震調査研究推進本部（平成28年11月10日公表）。

地震調査研究推進本部とは：1995年に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに設置された政府の特別の機関（本部長は文部科学大臣）。政府全体の地震に関する調査観測や研究の方針を立て、それらのもとで関係機関が取組を進めている。さらに、それらの調査結果や研究の成果から、地震発生の可能性など地震活動についての評価を行っている。

1. 鳥取県中部地震の概要

- ① 10月21日14時07分に鳥取県中部の深さ約10kmでマグニチュード(M) 6.6の地震が発生。
- ② 倉吉市、湯梨浜町、北栄町で最大震度6弱、三朝町、鳥取市、真庭市、鏡野町で震度5強を観測したほか、中国地方を中心に関東地方から九州地方にかけて震度5弱～1を観測した。(図1参照)
- ③ この地震の発震機構は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内の浅い地震。震源断層は北北西－南南東方向に伸びる長さ約10kmの左横ずれ断層。(図2、3参照)
- ④ 今回の震源断層周辺で発生する地殻内の地震は、発震機構が西北西－東南東方向あるいは、東西方向に圧力軸を持つ型が多い。
- ⑤ GNSS（全地球航法衛星システム）観測の結果によると、今回の地震に伴い、鳥取県内の羽合観測点が北北東方向へ約7cm移動するなどの地殻変動が観測された。(図2参照)
- ⑥ 2015年10月以降の中部の地震活動の状況は図4を参照。

2. 余震について

- ① 12月12日までに発生した最大の地震は10月21日14時53分に発生したM5.0の地震で、最大で震度4を観測。
- ② 鳥取県中部では、11月に最大震度3を観測する地震が1回、震度1以上を観測する地震は33回発生した。地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも、活動は継続している。(図5参照)
- ③ 鳥取県周辺では、大きな規模の地震の発生後に規模の近い地震が続発した事例が複数あり、同程度かさらに大きな地震が数ヶ月後に発生した事例もある。(図6参照)

3. 鳥取県中部地震の揺れの特性等

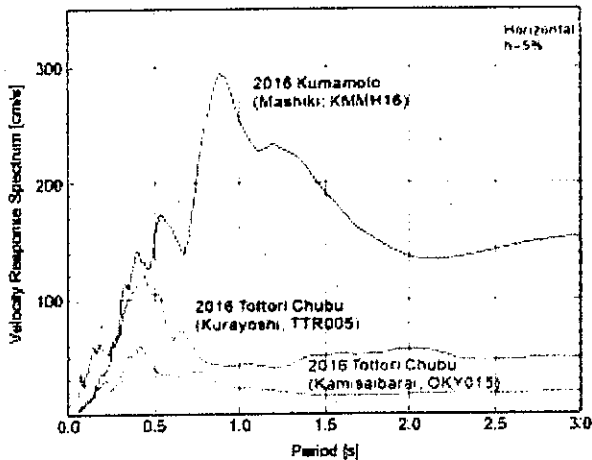
(1) 鳥取県防災顧問鳥取大学教授・工学部附属地域安全工学センター長 香川敬生氏の見解

- ① 家屋に被害が出やすいとされる周期（1～2秒程度）の揺れが弱いため、古い家屋や倉庫など、構造的に弱いものだけが選択的に被害を受けたと思われる。
- ② 一方で加速度と呼ばれる揺れ方は大きく、短い周期で瞬間的に揺れたので慣性が働き、屋根瓦が

ずれた。

- ③ 比較的地盤の固い倉吉市では瓦の落下や壁のひび割れ等の被害にとどまったが、北栄町では、地盤が軟らかいことで揺れが大きくなり、倒壊する建物が出た（家屋被害の多いエリアは地盤の揺れる周期が他と比べてゆったりとしている。）。

(2) 東京大学地震研究所による解析情報



倉吉や上斎原地点での揺れに対し、建物の影響（揺すられる強さ）を見るために速度応答スペクトルを求めた。2地点の揺れは、熊本地震の益城町の記録を広い周期帯で下回っており、0.4秒前後の周期成分が強かった一方で木造家屋に被害を与える周期1～2秒の成分は小さかった（速度応答40 cm/s以下）ことがわかる。このため、墓石などの小型構造物や建物の施設被害が大きかった可能性はあるが、木造家屋が倒壊するような被害は限定的であったと考えられる。

4. 有識者の見解（抜粋 12月13日時点）

(1) 鳥取県防災顧問 鳥取大学名誉教授 西田良平氏の見解

(今回の地震の発生メカニズム)

- ① 今回の地震は中部地域の中地震の空白域で発生した。1983年の地震（M6.2）と同じ断層型である。

(今後の見込み)

- ② 余震の時間経過は、今までの横ずれ断層型と同じ様に減衰している。余震数が減少するとともにM4クラスの余震もほとんど発生していない。

M6.6と規模が大きいので、今後も震度3程度の余震に備えることが必要である。また、M7クラスの鳥取県西部地震では2年後にも規模の大きな地震（2002年に倉吉市西部にM5.5）が発生しているので、備えは必要である。

- ③ 鳥取県中部に地震空白域はなく、近傍で中地震（M6クラス）が発生する可能性は小さいと思う。

京都大学防災研究所の西村准教授の指摘による「山陰地域はひずみ集中帯である」、これは地震を起こすエネルギーが蓄積される場所であり、中地震は日本列島のどこでも発生する可能性があり、今後も警戒することが大切である。

(2) 鳥取県防災顧問 鳥取大学教授・工学部附属地域安全工学センター長 香川敬生氏の見解
(今回の地震の発生メカニズム)

- ① 1943年の鳥取地震以外は京大防災研の西村准教授が示されているGNSSによる山陰沿岸の東への移動に共役な走向の断層になっている。西村准教授も指摘されているが、紙や布の両端を左右にずらした場合に中央にできるしわにあたる、いわゆる「リーデルせん断」のようなものが西部地震や今回の地震のようなものとも考えられる。

(今後の見込み)

- ② 基本的に、今回の地震の余震活動は終息して来ていると思う。

ただ、周辺でクラスター型の地震活動が別途発生し、それによって最大M5台の地震が発生する傾向がこの地域に見られ、可能性は低いと思われる。これは数年の期間を見ておく必要があるが、「いつどこで」の予測は困難。

また、倉吉など今回の地震で強い地震動を受けた地域では、外見上は健全であっても見えないところで構造的な被害を受けている可能性が懸念される(柱の損傷や金物の乖離など)。今後懸念される南海トラフの地震(最大で震度5強が数分継続)に備えて、きちんとした耐震診断と補修あるいは補強が重要となる。

- ③ 今回の地震(Mw*6.2)までの中部の地震のモーメントの総和は、西部地震(Mw6.6)にほぼ匹敵しM7クラスの新たな発生可能性は小さいと思う。

ただし、M6の地震モーメントは小さいのでひとつ余分に発生しても誤差の範囲。

※Mw：地震は地下の岩盤がずれて起こるものです。この岩盤のずれの規模(ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ)をもとにして計算したマグニチュードを、モーメントマグニチュード(Mw)と言います。普通の気象庁マグニチュード(Mj)は地震計で観測される波の振幅から計算されますが、規模の大きな地震になると岩盤のずれの規模を正確に表せません。(気象庁ホームページより)

(3) 京都大学防災研究所附属地震予知研究センター准教授 西村卓也氏の見解
(今回の地震の発生メカニズム)

- ① GNSS(GPS)観測によって見いだされていた「山陰ひずみ集中帯」で発生した地震である。

山陰ひずみ集中帯が東西走向で右横ずれ運動をしていることと一見矛盾するが、ひずみ集中帯内部での複雑な断層運動を考慮すると決して矛盾することなくGNSS観測と整合的である。

(今後の見込み)

- ② 基本的に、地震活動の推移予測は極めて困難であり、あくまで多くの仮定に基づいたいくつかの可能性を提示することしかできない。

鳥取県中部では1710年と1711年に今回と同程度の規模の地震が発生した事例が知られており、今回の地震に関しても同規模の地震が数年以内に発生する可能性は否定できない。

今回の地震前10年程度のGPS観測から推定される1年あたりに蓄積されるひずみ速度が過去同じ速度で続いていたとすると、今回の地震は300年程度のひずみ蓄積量を解放したと考えられ、前述の1710年から蓄積したひずみを概ね解放したと考えることができる。

- ③ 今回の地震の震源域より西側では、1711年以降に顕著な地震はなく、ひずみが蓄積されている可能性はある。

(4) 京都大学防災研究所附属地震予知研究センター長・教授 飯尾能久氏の見解

(今回の地震の発生メカニズム)

- ① 日本海沿岸に沿って存在する下部地殻内のやわらかい領域が変形し、その直上の地震帯にひずみエネルギーがたまり、今回の地震も、そのひずみエネルギーが解放されたために起こったと考えられる。

(今後の見込み)

- ② 地震で大きなすべりが起こる深さ範囲全体わたって大きなすべりが起こった場合は同じ震源域内と直交方向に余震域の長さの半分以上の領域では少なくとも数百年は同程度の地震が起こる可能性が極めて低い。

ただ、断層の両端では地震すべりのためにひずみが集中しているはずで一回り小さな M6.2 程度には引き続き注意は必要。ただし、地震帯からどの程度の距離まで、ひずみが大きいかは定量的には分かっていない。

- ③ 鳥取県内で今後大きな地震が起こる可能性のある地域は今回の余震域と鳥取県西部地震の間。1710年に続き1711年に西側で地震が発生。付近では、群発的な活動も起こっているので、地震が起こりやすくなっている可能性がある。1943年の鳥取地震の東端がどのような状態にあるかは全く分からない。地震帯に沿う領域では大地震の注意が必要。ただし、大地震はすぐにも起こるかもしれないが、数百年先かもしれない。

震度分布

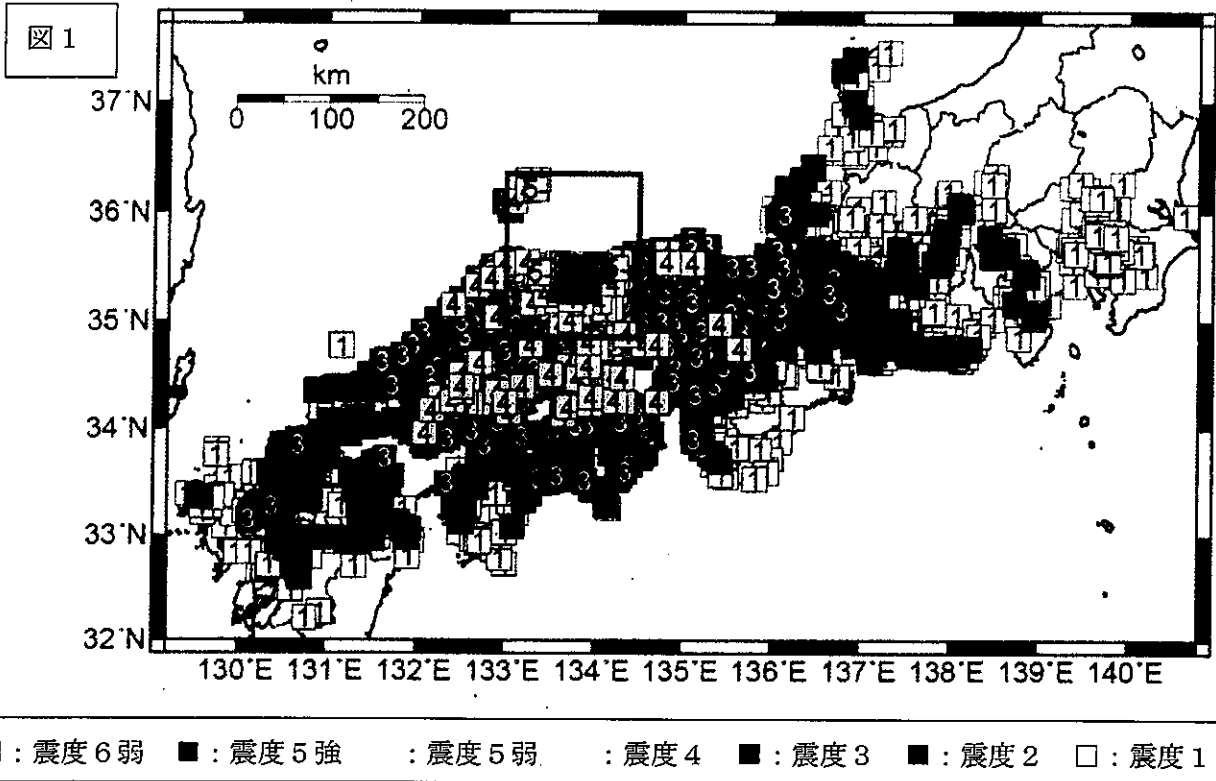
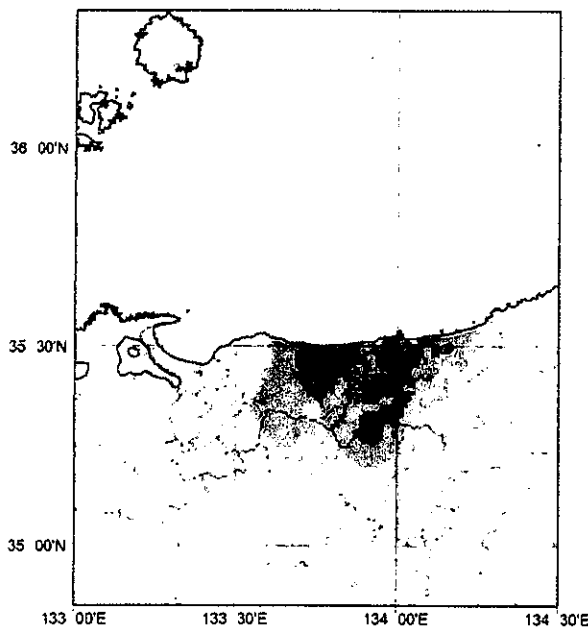


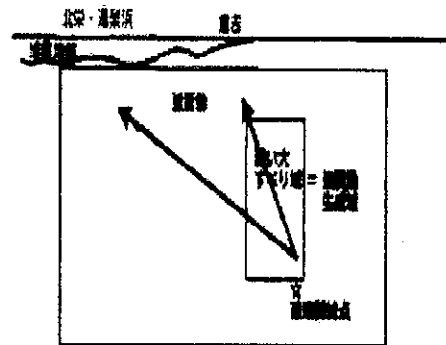
図 1-1

推計震度分布図



出典：気象庁

- ・震源断層の強震動生成域から生じた強震動が、倉吉から日本海沿岸に放射された。
- ・断層規模が小さく、表層部のすべりも小さいため、地表地震断層は生じなかった。
- ・地域の地盤卓越周期に応じた強震動を生じ、それに対応した被害を生じた。



出典：香川教授作成資料

鳥取県中部の地震の震源断層モデル（矩形断層一様滑りモデル）

SAR（だいち2号）及びGNSSで観測された地殻変動から、北北西-南南東走向の高角の断層が左横ずれ的に動いたと推定される。

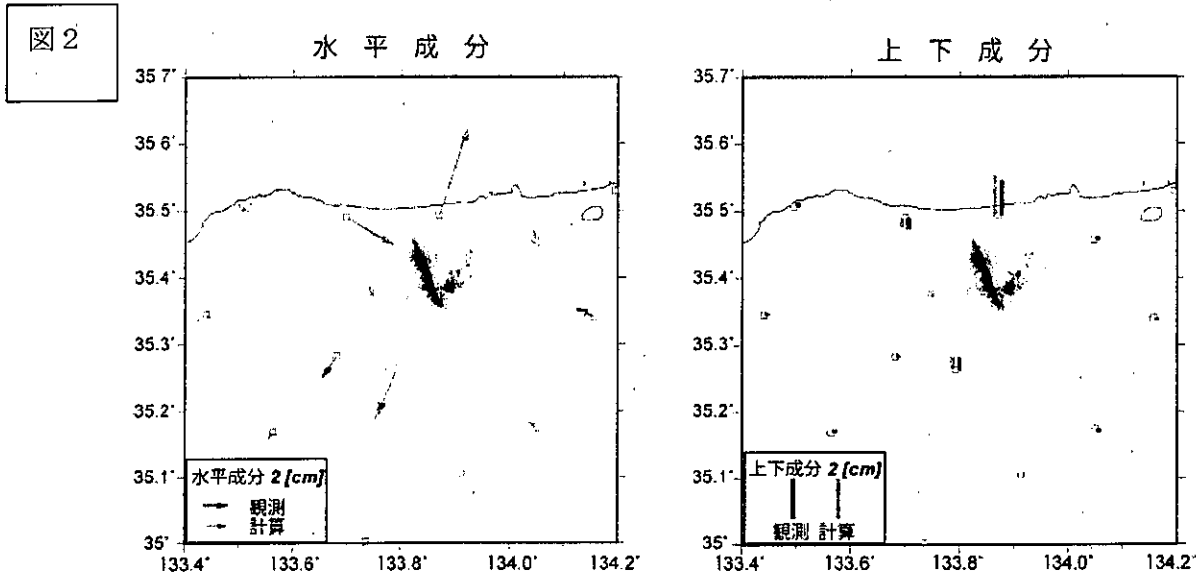


図1 GNSSデータの観測値と計算値。
 (左) 水平成分、(右) 上下成分。実線は断層の上端位置。★印は震源。
 灰色点は余震（気象庁一元化震源：2016/10/21～2016/10/27）。

表1 震源断層パラメータ

経度 [°]	緯度 [°]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [°]	傾斜 [°]	滑り角 [°]	滑り量 [m]	M_w
133.838 (0.007)	35.435 (0.004)	2.4 (0.6)	8.1 (1.2)	6.9 (4.0)	160 (2.0)	88 (2.6)	-2 (4.2)	1.3 (0.2)	6.15

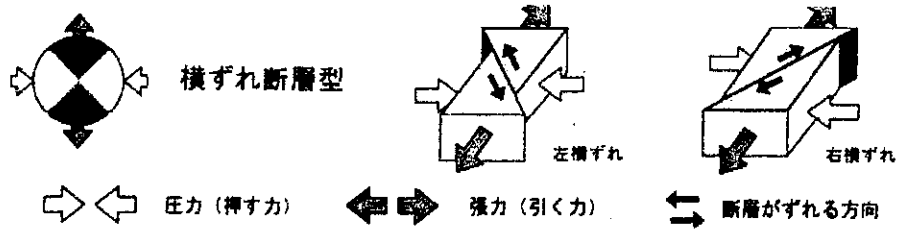
※矩形断層1枚での推定結果。位置は断層の左上端を示す。()内は誤差を示す(1σ)。

出典：国土地理院

鳥取県中部地震の発震機構

図3

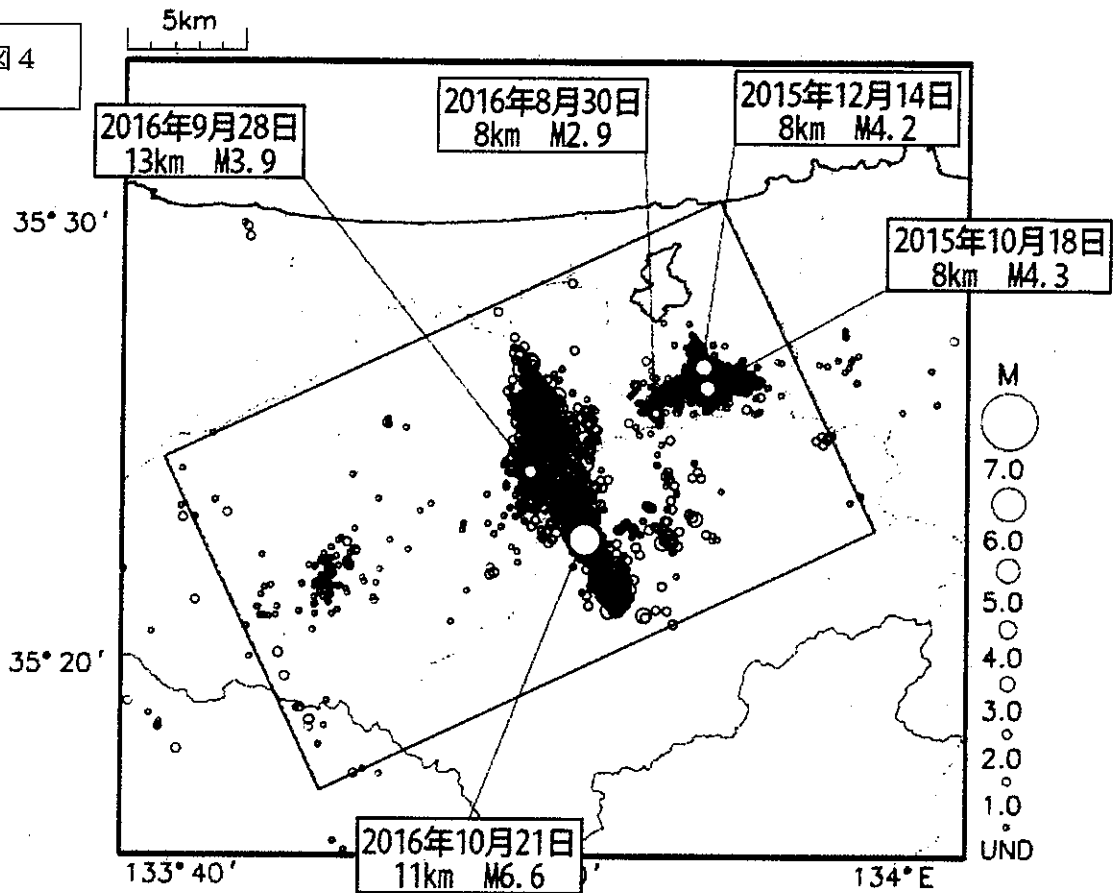
発震機構解【初動解】について



出典：鳥取地方気象台

2015年10月以降の地震活動の状況

図4



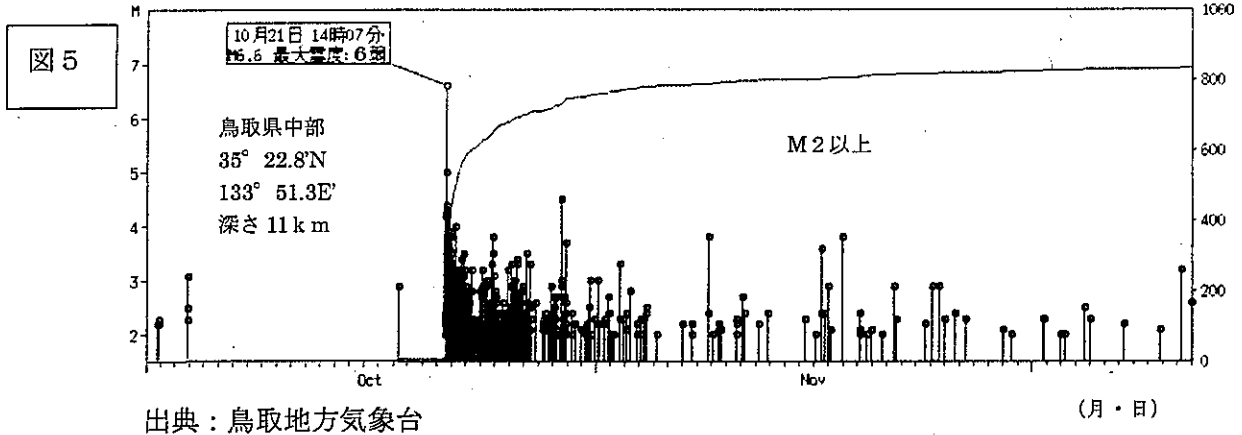
黒：2015年10月1日～2015年11月30日
 桃：2015年12月1日～2016年8月19日
 緑：2016年8月20日～2016年9月25日
 青：2016年9月26日～2016年10月20日
 赤：2016年10月21日以降

10月21日以降の余震の発生回数

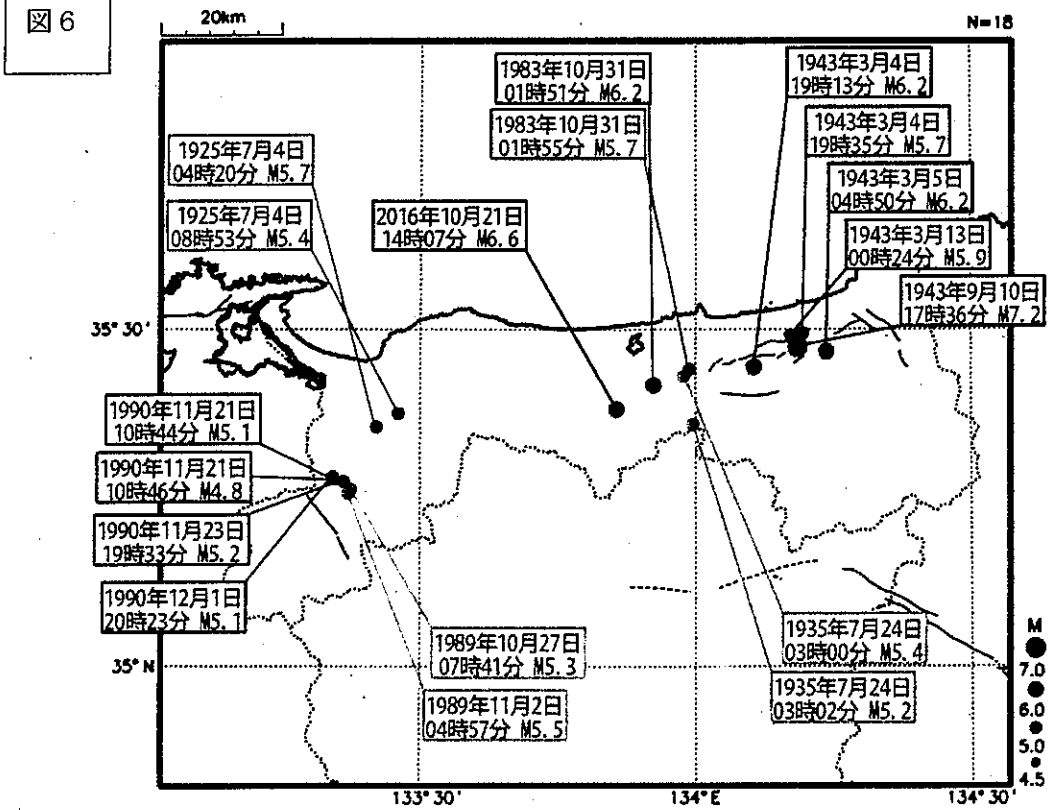
(マグニチュード)

2016 10 01 00:00 -- 2016 12 11 24:00

(地震発生回数)



鳥取県内における内陸地殻内の地震の続発事例



平成28年12月8日、中国電力から島根原子力発電所2号機の中央制御室空調換気系^{*}のダクトの点検を行っていたところ、当該ダクトに腐食孔が確認されたとの連絡がありました。これを受け、本県では、原子力安全対策課内に情報連絡室を設置するとともに、安全協定に基づく現地確認を実施し、腐食孔の現場状況や環境等に影響のないことを確認しました。また、事案発生の翌日には、県庁において同社から改めて報告を受け、再発防止策の徹底等について申入れを行いました。

中国電力に対しては、引き続き厳しく安全対策を求めていくとともに、原子力規制庁の確認、指導等の状況について注視していきます。

※中央制御室空調換気系：通常は外気を取り入れて中央制御室の換気を行うが、大気への放射能放出事故の発生時には、事故が収束するまでの間、運転員が中央制御室にとどまり、各種の監視、操作が行えるよう、外気を取り入れを遮断し、中央制御室の空気を高性能フィルタを介して内部循環させる系統。

1 事案の概要

- (1) 発生日時 12月8日(木) 16時00分頃
- (2) 発生場所 島根原発2号機中央制御室空調換気系ダクト〔放射性物質のない非管理区域〕
- (3) 発生状況
 - ・島根原子力発電所2号機の中央制御室空調換気系のダクトの点検において、外側に巻いた保温材を外したところ、配管に腐食孔（縦約30cm、横約1m）が開いているのを発見した。
 - ・中国電力では、当該系統は法令に基づく安全上重要な設備に該当し、この系統に要求される必要な機能（隔離機能）を満足していないと判断し、原子力規制庁に連絡した。
- (4) 発生原因 調査中
- (5) 環境への影響等 放射線による人体及び環境への影響なし、負傷者等なし

2 安全協定に基づく現地確認

- (1) 日時・場所 12月8日(木) 22時45分～9日(金) 0時15分・島根原子力発電所
- (2) 確認者 原子力安全対策課、西部総合事務所、米子市、境港市の職員
- (3) 確認概要
 - ・中央制御室空調換気系のダクトの腐食孔を現地にて確認した。
 - ・各種モニタ等を確認し、放射線による周辺環境等への影響がないことを確認した。
 - ・早急の原因究明、水平展開を含む再発防止対策の徹底、対応状況の県に対する適宜報告の3点について中国電力に口頭で申入れを行った。

3 中国電力からの説明

- (1) 日時・場所 12月9日(金) 9時00分～9時20分・危機管理局長室（県庁第二庁舎3階）
- (2) 対応者 【中国電力】天野島根原子力本部副本部長兼鳥取支社長 他
【鳥取県】城平危機管理局長 他
- (3) 報告概要

事案が発生した状況について説明を受けたが、原因究明、再発防止対策の検討はこれから進めるとのことであった。8日に原子力規制庁に連絡するとともに島根原子力規制事務所の職員が現地確認を行っているとのことであった。
- (4) 申入れ事項
 - ・原因究明を徹底すること。
 - ・再発防止対策を徹底するとともに、水平展開を行うこと。
 - ・対応状況について途中段階を含めて報告を行うとともに、県民にも情報提供を行うこと。
 - ・原子力規制庁の指導を受けながら適切に対応すること。
 - ・安全文化を意識して対応すること。

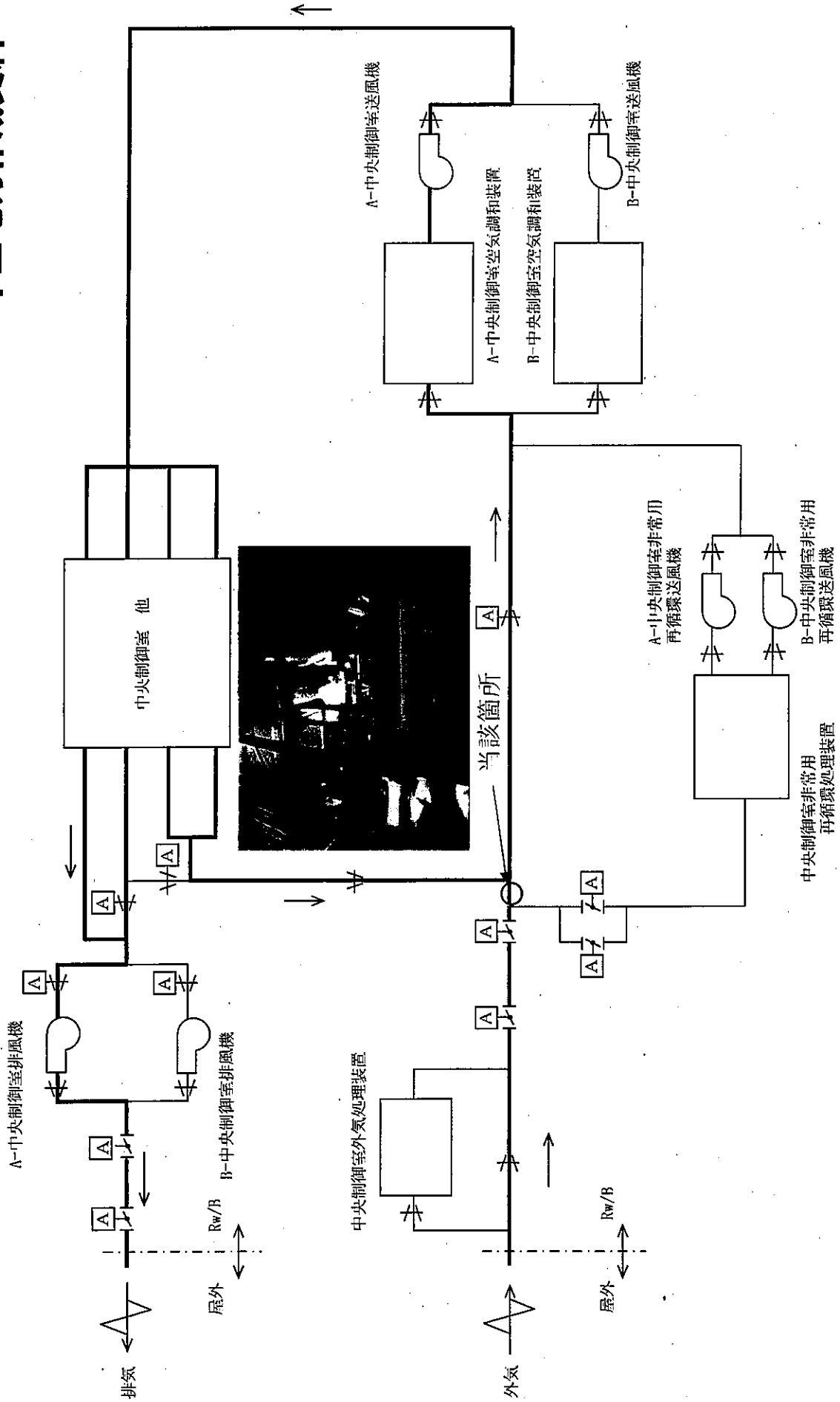
<発生状況の経過>

【12月8日(木)】

- 16:00頃 2号機中央制御室空調換気系のダクトに腐食孔を確認
- 19:58 中国電力から第1報を受信、本県が情報連絡室を設置、モニタリングポストに異常がないことを確認（以後、現地確認終了まで継続して確認）
- 20:20 安全協定に基づく現地確認のため職員を派遣（県庁を出發）
- 20:49 中国電力から第2報を受信
- 22:25 派遣職員が島根原発に到着
- 22:45 現地確認を開始

【12月9日(金)】

- 00:15 現地確認を終了
- 09:00 中国電力が事案概要を説明（於県庁）
- 09:30 本県が情報連絡室を廃止



中央制御室空調換氣系統圖

現場状況写真 (12/8 鳥取県職員撮影)



平成28年度防災士養成研修の開催について

平成28年12月15日
消 防 防 災 課

平常時には自助・共助の考え方や取組を広げるとともに、災害時には共助の取組の指導や助言を行いうる「防災士」を養成することにより、地域防災力の向上を図るため、下記のとおり平成28年度防災士養成研修を県内で開催します。

記

- 1 目 的 平常時には自助・共助の考え方や取組を広げるとともに、災害時には共助の取組の指導や助言を行いうる「防災士」を養成することにより、地域防災力の向上を図ります。
- 2 開催日時 平成29年1月28日(土) 午前9時～午後6時30分
平成29年1月29日(日) 午前9時～午後6時30分
※時間帯は予定です。
※2日目の最後に防災士資格取得試験を実施します。
- 3 開催場所 新日本海新聞社中部本社ホール(倉吉市上井町一丁目156)
- 4 参加対象 一般住民、自主防災組織役員、消防団員、市町村職員、学生等 100名程度
※防災士研修センターHPで一般の参加者を募集中。
- 5 受講料 60,920円(税込み)
※防災士資格取得試験受験料3,000円、防災士認証登録料5,000円を含みます。
※市町村が公費負担し養成を行うものに対しては、県は鳥取県防災・危機管理対策交付金で財政支援。
- 6 主 催 鳥取県、県内市町村及び(株)防災士研修センター
- 7 防災士の資格取得までの流れ
平成29年1月上旬 教材送付、事前課題(履修確認レポート)への取組
28日 防災士養成研修(1日目)(事前課題の提出)
29日 防災士養成研修(2日目)
防災士資格取得試験(試験範囲:平成28年度の防災士教本内、
出題数:30問(三択形式)、試験時間:50分)
2月 試験合格者が防災士認証登録申請(事前に救急救命講習の受講が必要)
3月 防災士認証登録(認定証等送付)※申請者に届くのは4月上旬。
- 8 参考
(1) 防災士について
「自助」、「共助」、「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動を期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を習得したことを、NPO法人日本防災士機構が認証した人です。防災士には、家庭、地域、職場において、生命や財産に関する被害の軽減のために、実際の被災現場で実際の役に立つ活動を行うこと、地域や団体等の要請を受け、自治体やボランティアと協働して防災活動を行うこと、平常時には、防災意識の啓発をはじめ、防災訓練への参加や防災計画の立案等にも参画することなどの活動が期待されています。(平成28年10月末現在、鳥取県内で378名登録(全国:117,560名))
(2) 自主防災活動の担い手を養成・活用する市町村の主な取組
 - ・鳥取市…地域住民の中から防災リーダーを養成するとともに、防災指導員を地区公民館(小学校区)単位で配置
 - ・倉吉市…消防団員に防災士資格を取得させ、担当地区の防災訓練の指導等を実施
 - ・境港市…防災士資格を取得した自主防災組織の構成員が、防災活動の中心的役割を担当
 - ・岩美町…自主防災組織の中で指導的役割を担う地域防災活動協力員を養成
 - ・日吉津村…消防団員に防災士資格を取得させ、地域防災の指導を担当

平成28年度「防災とボランティアの日」及び「防災とボランティア週間」における防災関連行事について

平成28年12月15日
消 防 防 災 課

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図るために、毎年1月17日を「防災とボランティアの日」、その日を含む1月15日から1月21日までを「防災とボランティア週間」とされています。この機を捉えて、県内において、防災関連行事が以下のとおり実施されます。

〔県・市町村等の防災関連行事〕

行事名	日時・場所・内容	問い合わせ先
消防出初式	日時：1月6日（金）午前10時～11時 場所：東巖城町市民スポーツ広場（倉吉市） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	鳥取中部ふるさと広域連 合消防局総務課 （電話 0858-29-5120）
	日時：1月6日（金）午前10時～11時30分 場所：江府町山村開発センター（江府町） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	江府町総務課 （電話 0859-75-2211）
	日時：1月8日（日）午前9時～11時30分 場所：鳥取市立北中学校、鳥取城跡お堀端（鳥取市） 内容：式典、分列行進、一斉放水、古式ポンプ操法及びはしご登りを実施。	鳥取市危機管理課 （電話 0857-20-3127） 鳥取県東部広域行政管理 組合消防局消防総務課 （電話 0857-23-2433）
	日時：1月8日（日）午前10時～正午 場所：米子市文化ホール、米子港埠頭（米子市） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	米子市防災安全課 （電話 0859-23-5338） 鳥取県西部広域行政管理 組合消防局総務課 （電話 0859-35-1951）
	日時：1月8日（日）午前10時～11時30分 場所：東巖城町市民スポーツ広場（倉吉市） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	倉吉市防災安全課 （電話 0858-22-8162）
	日時：1月8日（日）午前10時～11時50分 場所：境港市民会館、大正町内港埠頭（境港市） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	境港市自治防災課 （電話 0859-47-1071）
	日時：1月8日（日）午前9時～11時30分 場所：中央人権啓発センター（八頭町） 内容：式典及び一斉放水を実施。	八頭町総務課防災室 （電話 0858-76-0203）
	日時：1月8日（日）午前9時30分～11時30分 場所：湯梨浜町中央公民館（湯梨浜町） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	湯梨浜町総務課 （電話 0858-35-3111）
	日時：1月8日（日）午前10時～正午 場所：琴浦町東伯勤労者体育センター（琴浦町） 内容：式典、分列行進、機械点検及び一斉放水を実施。	琴浦町総務課 （電話 0858-52-1700）
	日時：1月8日（日）午前9時30分～11時30分 場所：運転免許試験場跡地（北栄町） 内容：式典及び一斉放水を実施。	北栄町総務課 （電話 0858-37-3111）
日時：1月8日（日）午前10時～11時30分 場所：役場玄関前（日吉津村） 内容：式典、機械点検及び一斉放水を実施。	日吉津村総務課 （電話 0859-27-5950）	

行事名	日時・場所・内容	問い合わせ先
消防出初式	日時：1月8日（日）午前10時～11時50分 場所：名和総合運動公園駐車場及び名和川（大山町） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	大山町総務課 （電話 0859-54-5201）
	日時：1月8日（日）午前10時～正午 場所：南部町農業者トレーニングセンター（南部町） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	南部町総務課 （電話 0859-66-3112）
	日時：1月8日（日）午前10時～正午 場所：伯耆町農村環境改善センター（伯耆町） 内容：式典、分列行進及び一斉放水を実施。	伯耆町総務課 （電話 0859-68-3111）
	日時：1月9日（月）午前9時30分～正午 場所：岩美町民体育館（岩美町） 内容：式典、分列行進、機械点検、一斉放水及び規律訓練を実施。	岩美町総務課 （電話 0857-73-1411）
	日時：1月14日（土）午前9時30分～11時50分 場所：日南町総合文化センター（日南町） 内容：式典、一斉放水及びパレードを実施。	日南町総務課 （電話 0859-82-1111）
文化財防火デー	日時：1月下旬の予定 場所：未定 内容：地元の自衛消防団、北栄町消防団及び琴浦消防署の合同による消防訓練を実施。	北栄町総務課 （電話 0858-37-3111）
	日時：1月22日（日）午前9時～9時30分 場所：三百田氏住宅（若桜町） 内容：自治会・自警団、広域消防及び消防団の消防訓練を実施。	若桜町総務課 （電話 0858-82-2211）
	日時：1月22日（日）午前10時～10時30分 場所：矢部家住宅（八頭町） 内容：地元の自警団、八頭町消防団、八頭消防署の合同による消防訓練を実施。	八頭町総務課防災室 （電話 0858-76-0203）
	日時：1月22日（日）午後1時～3時 場所：長栄寺（湯梨浜町） 内容：地元の自主防災組織、湯梨浜町消防団、湯梨浜消防署の合同による消防訓練を実施。	湯梨浜町総務課 （電話 0858-35-3111）
春季火災予防運動	日時：3月1日（水）～3月7日（火） 場所：市内一円（鳥取市） 内容：消防団が火災予防の広報を実施。	鳥取市危機管理課 （電話 0857-20-3118）
小学校の防災授業 （土曜授業）	日時：1月21日（土）午前9時～10時30分 場所：成徳小学校（倉吉市） 内容：低学年を対象とした防災授業を実施。	鳥取中部ふるさと広域 連合消防局倉吉消防署 予防係 （電話 0858-26-2122）
	日時：1月21日（土）午前9時～正午 場所：社小学校（倉吉市） 内容：消火、通報、避難訓練、煙体験及び起震車体験を実施。	鳥取中部ふるさと広域 連合消防局西倉吉消防 署予防係 （電話 0858-28-2110）
米子市自主防災組織研修会	日時：2月19日（日）午前10時～正午 場所：福祉保健総合センター（米子市） 内容：自主防災組織及び未結成自治会会長を対象とした防災研修会を実施。	米子市防災安全課 （電話 0859-23-5328）
平成28年度災害時 応援協定事業者へ の支援要請訓練	日時：1月17日（火）午前11時～ 場所：県庁災害対策室（鳥取市）ほか 内容：県と県内協定締結業者の対応能力を向上させるため、災害発生を想定した支援要請訓練を実施。	鳥取県危機管理政策課 （電話 0857-26-7894）
平成28年度徳島県 国民保護共同図上 訓練と連携した鳥 取県訓練	日時：2月10日（金）午後1時～ 場所：徳島県庁（徳島市）ほか 内容：徳島県国民保護共同図上訓練と併せて、当該訓練のシナリオに基づく徳島県との連携訓練を実施。	鳥取県危機対策・情報課 （電話 0857-26-7878）

行事名	日時・場所・内容	問い合わせ先
防災研修等の支援 (鳥取県自主防災 活動アドバイザー 派遣制度)	日時：1月21日(土) 午前10時～正午 場所：福祉保健総合センター(米子市) 内容：地域の防災研修会に講師として自主防災活動アドバイザー (難波 修身 氏) を派遣し、防災に関する講演を実施。	鳥取県消防防災課 (電話 0857-26-7082)
	日時：1月21日(土) 午後2時30分～4時 場所：八橋地区公民館(琴浦町) 内容：地域の防災研修会に講師として自主防災活動アドバイザー (西田 良平 氏) を派遣し、防災に関する講演を実施。	鳥取県消防防災課 (電話 0857-26-7082)
平成28年度鳥取県 消防関係表彰式	日時：2月中旬の予定 場所：中部地域を予定 内容：功労のあった消防関係者及び消防関係団体に対する表彰を実施。	鳥取県消防防災課 (電話 0857-26-7065)
平成28年度鳥取県 消防大会兼鳥取県 自主防災組織等研 修会	日時：2月中旬の予定 場所：中部地域を予定 内容：本県の消防関係者や自主防災組織等を対象とした研究討議を 実施。	鳥取県消防防災課 (電話 0857-26-7065)
鳥取県中部地震～ 被害の実状と支援 活動～	日時：1月5日(木)～3月30日(木) 場所：鳥取県西部地震展示交流センター内(日野町) 内容：鳥取県中部地震に関する新聞記事や広報誌、支援活動の写真等 を展示。	鳥取県西部地震展示交 流センター (電話 0859-72-2220)

